

平成30年度第1回中部森林管理局保護林管理委員会 議事概要の公表について

保護林管理委員会は、森林・林業や自然環境に関する専門家、関係地方公共団体等で構成され、中部森林管理局管内における保護林の設定、変更、廃止、管理及びモニタリング等に関する事項並びに保護林に関連する生物多様性の保全について検討を行っています。

「平成30年度第1回中部森林管理局保護林管理委員会」を以下のとおり、開催しましたので、その議事概要等を公表します。

1 開催日時 平成30年7月13日（金）13時30分～15時30分

2 開催場所 長野県松本市島立1256-1
中信森林管理署会議室

3 議事概要 別紙のとおり

4 検討内容

- (1) 平成29年度モニタリング調査結果について
- (2) 平成30年度モニタリング調査について（報告）
- (3) 中部森林管理局管内の保護林モニタリング計画について
- (4) 廃止した「郷土の森」の活用状況について

—お問合せ先—

林野庁 中部森林管理局 計画保全部計画課
担当者： 富岡、栗田
電話： 050-3160-6583



平成30年度 第1回中部森林管理局保護林管理委員会議事概要

開催日時 及び場所	平成30年7月13日(金) 13:30～15:30 中信森林管理署 会議室
出席委員	植木 達人 (信州大学農学部 教授) 委員長 生方 正俊 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター 遺伝資源部 部長) 奥 敬一 (富山大学芸術文化学部 准教授) 小宮山義光 (日本野鳥の会長野支部 幹事) 西條 好迪 (自然学総合研究所 理事長) 由井 正隆 (長野県木材協同組合連合会 理事) 委員8名中6名出席 (五十音順)
議 題	1 平成29年度モニタリング調査結果について 2 平成30年度モニタリング調査について(報告) 3 中部森林管理局管内の保護林モニタリング計画について 4 廃止した「郷土の森」の活用状況について
概 要	○ 委員からの主な意見 1 平成29年度モニタリング調査結果について ・ ニホンジカ・イノシシについて、最近では北信地域の飯山から栄村方面でも確認されており、雪の多い地域と関係なく千曲川に沿って北上しているため、今後注意が必要である。 ・ セイヨウタンポポ等の外来種対策について、一般の入山者へ外来種を周知し、散策のついでに駆除の協力をお願いするのも一つの手法と考えてはどうか。 ・ ケショウヤナギの植物群落保護林のプロット2について、ケショウヤナギが既に無くなっているという状況であることから、代替りのプロットを設ける等の対策が必要ではないか。 ・ ケショウヤナギのプロットについて、重機で人為的に歩道を守るために土手を作り直しているが、数十年後は生育環境が変り当プロットが消滅している可能性がある。 ・ プロットを移動する場合は、継続性として保存の状況がどう変わっていくのか、時間の変化を追っていく必要がある。また、プロットを新たに設定する場合、その植生等を代表する場所である必要はないことから慎重に行うこと。 ・ プロット2について、ケショウヤナギの稚樹がたくさんあることから、これらをもっと積極的に保護するような方策を検討してはどうか。 2 平成30年度モニタリング調査について(報告) 意見なし 3 中部森林管理局管内の保護林モニタリング計画について 意見なし 4 廃止した「郷土の森」の活用状況について ・ 外来種が確認された場合には、必要に応じて駆除し、モニタリングを行いながら、これ以上の拡散を防ぐということが大事である。 ・ 乗鞍生物群集保護林に隣接している市有林については、地域的にも植生的にも保護林と類似の環境条件であり、非常に良く自然状態が維持されている。市有林に対しても保護林の考え方を理解いただき、民国連携として発展させるべきではないか。 以上